



連携事例21

R5.8 更新

# 『やちまたふくしフェスタ 2018』

～ かんじる・つながる・うまれる ～

ちば  
コラボ大賞  
受賞事例



ランチタイムパフォーマンス

## 事業概要

オープニングセレモニー（大学生による演奏とダンスのコラボ） / ランチタイムパフォーマンス（高校生による和太鼓の演奏、少林寺拳法の演武、書道パフォーマンスのコラボ） / クロージングセレモニー（高校生、障がい者団体、障がい者支援施設の3団体合同による手話合唱） / ニュースポーツ体験 / 点字体験 / 手話体験 / 福祉車両乗車体験 / 各種ワークショップ / 講演 / 美術作品の展示 / ピアノカフェ / うまいもの市 / ハンドメイドマーケット / バザー / スタンプラリー / お楽しみ体験 / フードバンク / みんなのメダルプロジェクト

## 協働までの経緯

『やちまたふくしフェスタ』は障がい福祉をテーマとして、多様な人が発信できる、活躍できる、体験できる、学べる、遊べる、おいしいものが食べられる参加型、体験型のイベントで、障がい者とその家族、支援者、地域住民が自然に居合わせ、交流できる場づくりを行っています。

この事業は、八街市が市内の社会福祉法人に運営を委託している地域自立支援協議会から波及した事業で、「障がいがあってもなくてもくらしやすいまちづくりのきっかけをつくりたい」との思いから障がい福祉に関わる社会福祉法人やNPO、企業などが主体となって『やちまたふくしフェスタ実行委員会』を組織し、個人、NPO、企業、学校など様々な活動主体と連携することで、地域の様々な人や情報をつなぎ、出会いと交流の場づくりを行いながら、障がいに対する理解を啓発しています。

## 主な事業内容(年間スケジュール等)

イベントの各エリア毎（ステージ、大会議室、小中会議室、美術展、物販、スタンプラリー、広報）に役割分担し、3月から8月にかけて毎月1回開催する実行委員会の中で連絡調整を図りながら企画立案からイベント当日の運営までを行っています。

## 協働パートナーの種別

NPO	企業	行政	教育	地縁
-----	----	----	----	----

## 事業運営団体

やちまたふくしフェスタ 2018 実行委員会

## 協働パートナー

☆八街市社会福祉協議会 ☆特別養護老人ホーム 空  
 ☆街かど相談所ゆるるか ☆障害者支援施設 就職するなら明朗塾 ☆相談支援事業所 明朗塾 ☆相談支援事業所 明朗アカデミー ☆就職するなら明朗アカデミー・八街キャンパス ☆障害者就業・生活支援センター就職するなら明朗塾 ☆障害者支援施設コスモ・ヴィレッジ ☆社会福祉法人泰斗会八街わらの里 ☆(株)みらい 黄色いハンカチ ☆株式会社あらた八街事業所 ☆放課後等デイサービスあらた八街事業所 ☆児童発達支援センター 銀河鉄道 ☆医療法人社団誠和会 長谷川病院 ☆城西国際大学 福祉総合学部 ☆NPO 法人秋桜社会福祉会 ☆NPO 法人やちまた放課後クラブ ぶらんこ ☆やちまた放課後クラブ 木馬 ☆八街市身体障害者福祉会 ☆八街市手をつなぐ親の会 ☆八街市精神障害者家族会きんもくせい会の会 ☆ダウン症のある子と親の会ジュビター ☆八街市市民部障がい福祉課 ☆やちまた若者サミット ☆地域を健康から豊かにする団体 tocos ☆ボランティア楽団和音 ☆絵本作家 中澤 久美子 ☆点字ボランティアともしび ☆手話サークルてのひら ☆八街おもちゃ病院 ☆千葉ホークス ☆NPO 法人恵みの会地域生活支援大地 ☆城西国際大学吹奏楽団 ☆城西国際大学 Stardust Kids ☆学校法人金剛学園 桜林高等学校 ☆千葉県立八街高等学校 ☆八街市立八街中学校 ☆八街市立八街中央中学校 ☆生活協同組合コープみらい 千葉県本部 ☆ダイハツ千葉販売株式会社 ☆まつざわコーヒー ☆御菓子司おきなや ☆古民家ベーカリー麦匠 ☆一般社団法人まちかど防災『減災塾』 ☆成田市のぞみの園 ☆社会福祉法人福祉楽団 ☆社会福祉法人印旛福祉会 いんば学舎オソロク倶楽部 ☆東金黒豆みそ鍋の会 ☆社会福祉法人清郷会 十倉厚生園 ☆あめ細工こみちゃん ☆生活クラブ風の村とんぼ舎さくら ☆千葉大学教育学部附属特別支援学校 ☆市場カフェ(船橋市場) ☆大切な人へ贈るこだわり野菜 vegewonder ☆中込農園 ☆米田ファーム ☆生活協同組合パルシステム千葉東金センター ☆千葉県立富里特別支援学校 ☆JICA 東京 JICA 千葉デスク ☆君津児童相談所

## 事業費

29万円

## 資金調達手段

委託料・助成金・寄附・利用料等受益者負担・運営団体負担・その他

## ◎ 主な協働パートナーとの役割分担

### 【NPO】

やちまたふくしフェスタ 2018 実行委員会（構成員それぞれのネットワークを活かして、参加者や出展者を募集するとともに、ニュースポーツ体験や聴覚障がい者体験などの参加型・体験型メニューの企画立案からイベント当日の運営までを行う。） / やちまた若者サミット（会場スタッフ、うまいもの市出店ブース、ワークショップ） / ダウン症のある子と親の会ジュピター（クロージングセレモニー（八街高校、八街わらの里とコラボ）） / ボランティア楽団和音（ピアノカフェ演奏（八街中学校生徒とコラボ）） / 点字ボランティアともしび（点字体験） / 八街市聴覚障がい者協会・手話サークルてのひら（手話体験、補助具展示） / 八街おもちゃ病院（おもちゃの修理） / 八街市出身の絵本作家中澤久美子さん（スタンプラリーに用いるスタンプのデザイン） / JICA（独立行政法人国際協力機構）（「JICA の取り組みと SDGs の啓発について」の講演） / 君津児童相談所（JICA ボランティアの活動発表） / 地域を健康から豊かにする団体 tocoS（からだ・健康ブース出展） / 千葉ホークス（車いすバスケット体験） / 一般社団法人まちかど防災減災塾（防災グッズの展示・作成）

### 【地縁団体】

市内 39 区（地域住民へチラシの回覧） / 八街市社会福祉協議会（日頃の業務で築き上げたネットワークを活用して参加団体や協賛金を募集）

### 【企業】

ダイハツ千葉販売株式会社（福祉車両の乗車体験） / 御菓子司おきなや（八街市イメージキャラクターのどら焼き作り（ワークショップ）） / 生活協同組合コープみらい千葉県本部（キャンディーバッグ作り（ワークショップ）） / まつざわコーヒー（カフェ（八街中学校生徒とボランティア楽団和音がピアノ演奏））

### 【教育】

市内小中学校特別支援学級（美術作品等の展示） / 八街中学校（生徒によるピアノカフェ演奏（ボランティア楽団和音とコラボ）） / 八街中央中学校（ボランティアによる参加（物販のお手伝い）） / 八街高校（ボランティアによる参加（着ぐるみ、案内係）、クロージングセレモニー） / 桜林高校（少林寺拳法部&書道部&和太鼓部によるランチタイムパフォーマンス） / 城西国際大学（吹奏楽団&ボランティアサークルによるオープニングセレモニー）

※児童・生徒のボランティア体験の場になっている他、部活動の発表の場にもなっています。

【個人（地元農家）】八街市産の農作物の販売、農業体験ワークショップ（ブロッコリーの鉢植え体験）

【行政】八街市（市と市教育委員会が後援・市の広報誌や防災無線、メール配信サービスを用いて広報・会場や臨時駐車場として公共施設を貸し出し・障がい福祉課がアドバイザーとして実行委員会へ参加）

## ◎ 協働事業によって生まれた成果

### 【NPO】

○やちまたふくしフェスタ 2018 実行委員会

- ・ やちまたふくしフェスタの企画立案から運営までの過程が、情報共有や人材育成の場となっており、回を重ねるごとに実行委員会が組織として成熟してきています。
- ・ 福祉まつりやふれあいスポーツ大会、長谷川病院で行われるフリーマーケットなど、様々なイベン

## ♡ コラボのコツ!!

### ★コツ1

障がい福祉という枠組みにとらわれず、異分野、多世代との連携を意識しています。  
やちまたふくしフェスタを通じて出会った人と人とのつながりを育むことで、やちまたふくしフェスタ以外の場での連携にもつながっています。

### ★コツ2

事業の実施費用については、個人・団体・企業から協賛金を募集することで、行政の補助金に依存しない持続可能な取組みとなっています。

### ★コツ3

事業の周知については、行政や地縁団体、企業の協力を得てチラシやポスター、地域新聞などの紙媒体で広報した他、SNS や電子メールなどの電子媒体も活用して幅広い層に情報が届くように情報発信しています。

### ★コツ4

ニュースポーツ体験に用いるユニカールの道具や車いすバスケットボール用の車いすについては、市内の団体等は所有していなかったことから、市外の団体等から借り入れることで実施しています。



トに互いに声を掛け合って参加するようになったことで、地域づくりやまちづくりの活動の幅が広がってきています。

#### ○やちまた若者サミット

・ 多様な活動主体との交流を通じて、まちづくりを多角的な視点で捉えられるようになり、JR八街駅前の活性化を目的とする『ちばクラフト青空ビアガーデン』や認知症啓発活動『RUN 伴』など、障がい福祉以外の課題解決に向けた活動が展開できるようになってきています。

#### ○ダウン症のある子と親の会ジュピター、ボランティア楽団和音

・ やちまたふくしフェスタでの交流がきっかけとなって、障がい者団体と音楽サークルがコラボして活動する機会が増え、定期的に発表の場がもたれるなど、障がい者の活躍の場が広がってきています。

#### ○ボランティア

・ ボランティアとして参加した子供たちがやちまたふくしフェスタを通じて障がい者と交流したことで、ボランティア精神が醸成されるとともに障がい者に対する理解が深まっています。

・ やちまたふくしフェスタの会場『フードバンクちば』や『TOKYO2020 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト』の募集を行うことで、一般の来場者が気軽にボランティア参加するきっかけを作っています。

【地縁団体、社会福祉協議会、学校・大学、企業、行政機関等】

#### ○社会福祉協議会

・ 社会福祉協議会が担う地域福祉の中核的な団体として、更なるネットワークの構築や人材の発掘・育成につながっています。

#### ○学校

・ やちまたふくしフェスタへの参加がきっかけとなって、市内の高校と障がい者支援施設や地域との交流が生まれ、高校生が地域福祉に参加する入口が増えてきています。

#### ○企業

・ 飲食ブースに市外（成田市、富里市、佐倉市、印西市、東金市、香取市、多古町、旭市、船橋市、千葉市）の企業や事業所を呼び込むことにより広域的な地域活性化と互いの相乗効果に発展しています。

#### ○個人（地元農家）

・ 農業体験のワークショップ（ブロッコリーの鉢植え体験）を地元農家と障がい者の方がコラボして実施することにより、障がいのあるなしに関わらず農業に触れる機会を創出できています。

#### ○行政

・ やちまたふくしフェスタ当日に障がい者と一般の来場者で作り上げた美術作品が、やちまたふくしフェスタの会場として施設（八街市中央公民館）を貸し出している市職員の目に留まったことで、市民文化祭へ出展する運びとなり、市役所内部の分野横断的な連携にもつながっています。

## 📌 今後力を入れていきたいこと

平成27年の第1回やちまたふくしフェスタの開催から今回で5回目を迎え、回を重ねるごとに参加者が増えており、また、事業の趣旨に賛同いただいた個人・団体・企業から協賛金を得られたことで、行政の補助金に依存しない持続可能な取組みへと発展してきています。

今後は、障がい福祉の観点から発信するイベントとして、多様性を重んじながら様々な活動主体を巻き込むことで、このイベントが起点となって様々な地域課題の解決に向けた取組みへと波及していくよう事業展開を図っていきます。

### 協働事例プロフィール

【活動年】 平成30年4月～9月 【活動のPR手法】 チラシ・ポスター・地域新聞・SNS・電子メール等

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 ちばコラボ大賞（令和元年） ちいき新聞 富里・八街版

【問い合わせ先】 担当者：粕 義和 電話番号：043-443-0748 メールアドレス：fukushi@yachimata-shakyo.or.jp